

東日本大震災「支援者報告会」を開きました！

昨日3月29日(火)午後4時から富山協立病院3階会議室にて「震災支援者報告会」を開きました。

100人が参加し、報道6社(朝日、赤旗、北日本、共同通信、富山、読売)からの取材もありました。

まず支援対策本部長・大野理事長があいさつをし、第2次支援者の医療生協本部業務課・橋本さんから報告がありました。橋本さんは長靴の半分以上へドロに浸かった松島医療生協・松島海岸診療所の様子や津波で町の中が壊滅的な状況を目の当たりにした事、そんな中でも被災後3日目から診療を始めていた松島海岸診療所の職員の頑張りに驚き、自分たちが持って行った支援物資を喜んでもらえ、「医療生協だからこそできた事だ」との感想も話していました。その後富山診療所・田辺看護師から現地の状況・支援内容など、映像を使っただけの報告がありました。田辺さんは「職種・入職年数に関係なく、その場で必要とされている事、自分にできる事をするので良い」「家で震災と津波の映像を見ながら、娘から“お母さん、支援に行かなくていいの”と言われ決意をした」との話をされました。富山協立病院・八倉巻看護師からは「被災した人が異常なまでに明るく元気だったが、何ヶ月かしてがっかり来た時に、心のケアが重要になってくると思う」との報告がされました。

また小児科医・飯村医師からは津波の恐ろしさ、避難所小学校での卒業式の様子が映像で流され、胸が痛くなる報告がされました。その後寺跡事務局長から今後の行動提起がされ報告会を終了しました。



橋本さんの報告



田辺さんからの映像での報告



第5次支援者(左から田辺・飯村・八倉巻さん)

3月30日 富山新聞 記事

募金到達(3月30日現在) 123万円/目標 300万円

<今後の支援活動「3つの行動提起」>

①300万円の募金を集めよう(継続的な募金活動を)

*7月末をめどに継続的に目標達成まで取り組みます。

*職員1人当たりになると1日分の給与相当額です。

②被災地へ支援者(職種問わず)を継続的に送ろう

*被災地は救急・緊急対応の段階から、生活再建の支援が重要になっています。避難所や地域住民の方の健康管理・介護、生活環境改善、心のケア等多様な支援が必要です。要請に応じて各人が自分の力を発揮してもらいます。

*志願制です。支援ボランティア登録をお願いします

③報告会やニュースで知った被災地の実態を周りの人に知らせよう

～支援者を呼んで各事業所・職場で支援者報告会開催を(DVDもあります)～

第6次支援 3月27日(日)富山県生協の協力で福島県郡山医療生協へ救援物資

富山県生活協同組合(略称:富山県生協)からトラックと運転手1名の協力を受けて、松島実さん(富山医療生協本部業務課)が郡山医療生協へ衛生用品、食糧等の救援物資を届けにいきます。

第7次支援 4月4日(月)看護師2名が宮城県坂総合病院へ医療支援に!

高嶋峰子さん(富山診療所師長)、松瀬紀代美さん(元職員・看護師)が4月9日(土)まで医療支援に行きます。元職員の松瀬さんは「民医連なら震災支援に真先に取り組んでいると思った。ぜひ一緒に支援にいきたい」と志願されました。1週間の有給休暇を取り、一緒に宮城へいくことになりました。

また4月11日(月)からは富山協立病院南2階病棟の高野田真代さん(看護師)・栃折規子さん(看護師)が宮城県塩釜市「坂総合病院」へ、寺跡勝(県連事務局)が仙台市の「長町病院(民医連加盟)」へ支援に行く予定です。

3月30日 朝日新聞 記事

3月30日 北日本新聞 記事

3/30 朝日新聞

現地入り医師ら 「息長い支援を」

東日本大震災

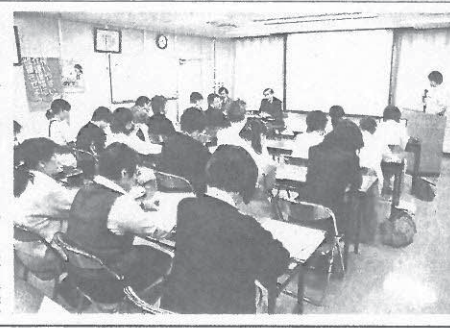
東日本大震災で被災した宮城県や福島県で活動した医師や看護師らが29日、富山市の富山協立病院で報告会を開いた。被災者のニーズは刻一刻変わっているといい、精神的なケアや息の長い支援を訴えた。

同病院が加盟する富山医療生活協同組合は地震後、食料や衛生用品、燃料や医薬品などを、現地の系列病院に送っている。22日からは医師1人、看護師3人を派遣し、宮城県塩釜市の坂総合病院を拠点に避難所や被災者の家を取り、診療やケアにあたった。物資を届けた事務職員は「地震だと思ったら、建物自体が傾いて常に揺れていた」と、過酷な環境で診療活動が再開していたことを報告。小児科医は、ぬいぐるみがないと眠れなかったりおねしょをしたりと、精神的なケアが必要な子がいたと語った。

地域を回った看護師は「被害は実際に見た人じゃないと分からないから、写真を撮って富山のみんなに見せてほしい」と何度も言われたという。地元の人には明るかったが、「張り詰めた妙な明るさだった。プツンと切れたときが怖い」と今後の支援のあり方を提起した。

3/30 朝日新聞

■被災地支援活動を報告 民主医療機関連合会の東日本大震災対策本部(大野孝明本部長)は29日、富山市豊田町の富山協立病院で、被災地での支援活動の報告会を開いた。写真。同本部はこれまでに、富山医療生協の職員や医師、看護師ら



13人を計5回にわたって、宮城、福島の両県に派遣している。報告会では、救援物資の運搬に携わった同生協業務課の橋本真琴さんが「被災地には継続的な支援が必要」と語った。医師と看護師の4人は、宮城県の病院や避難所での活動を説明した。同本部は、今後も被災地への医療支援を続ける。

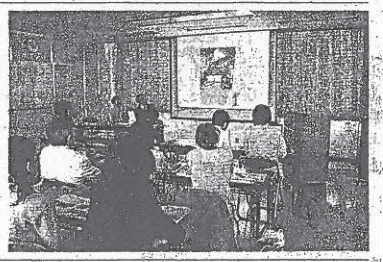
3/30 朝日新聞

被災地の活動 現状を紹介

富山民医連

富山民主医療機関連合会東日本大震災対策本部は29日、富山市の富山協立病院で報告会。写真。開き、4人が被災地の様子や現地での活動を紹介した。

宮城県塩釜市などで救援物資の搬送や被災者の診察を行った様子を述べた。富山医療生



協の橋本真琴さんは「被災地は物資が足りず、自治体が機能していない。ボランティアによる支援を継続していきたい」と話した。